

**立教大学学術推進特別重点資金（立教SFR）**  
**プロジェクト研究（重点領域プロジェクト研究）**  
**2007年度研究【経過・成果】報告書**

研究科名 (★1)	立教大学大学院	研究科		
共同研究科名等 (★2)				
研究課題	多層・多次元コミュニティにおける平和の現状と構想—共生・連帯の視点から			
研究代表者	所属・職名	氏名		
	法学部・教授	五十嵐 暁郎 印		
研究組織	所属大学名等・職名	氏名		
	立教大学経営学部教授	林 倬史		
	立教大学21世紀社会デザイン研究科特任教授	庄司 洋子		
	立教大学法学部教授	李 鍾元		
	新潟国際情報大学情報文化学部准教授	佐々木 寛		
	立教大学経済学部教授	郭 洋春		
	法政大学社会学研究科教授	宮島 喬		
	立教大学コミュニティ福祉学部准教授	湯澤 直美		
	立教大学文学部教授	田中 治彦		
	立教大学法学部教授	マーク・カプリオ		
	立教大学法学部教授	小川 有美		
	立教大学法学部兼任講師	浪岡 新太郎		
	立教大学社会学部教授	佐久間 孝正		
	立教大学文学部教授	栗田 和明		
立教大学コミュニティ福祉学部教授	三本松 政之			
立教大学経済学部講師	田島 夏与			
立教大学コミュニティ福祉学部准教授	小長井 賀與			
研究期間	2007 年度	～ 2008 年度		
研究経費	2007 年度	2008 年度	年度	総計
	4,990 千円	4,990 千円	千円	9,980 千円

(★1)(★2)は『交付申請書A』を提出した研究課題のみ記入して下さい。

**研究の概要** (200～300字で記入、図・グラフ等は使用しないこと。)

1. **平和・コミュニティ研究の確立** コミュニティをキー・コンセプトとする平和研究の理論を確立し、内外にアピールする。
2. **グローバル・ネットワークの形成** 内外の平和研究所・機関との協力のネットワークを形成する。そのためにデータベースを構築し、共同研究を促進する。
3. **英文ジャーナル、叢書の刊行** グローバルな研究活動を展開するために英文によるジャーナルを刊行する。平和・コミュニティ研究叢書の刊行を継続する。
4. **平和研究と教育の連携の強化** 大学院の「平和・コミュニティ研究科目」全カリ「平和」授業のサポートを継続し、21世紀社会デザイン研究科との連携をはかるとともに、若手研究者を育成する。

キーワード (研究内容をよく表しているものを3項目以内で記入。)

[ 平 和 ] [ コミュニティ ] [ 共 生 ]

**研究【経過・成果】の概要** (図・グラフ等は使用しないこと。)

前述「研究の概要」の項目の順に、以下 2007 年度の研究経過・成果を報告する。

**1. 平和・コミュニティ研究の確立**

平和・コミュニティ研究機構（以下、平コミと略称する）にとって、コミュニティをキー・コンセプトに平和研究を行うという独自の切り口、視点、方法論を理論的、実証的に深めることは最も重要な課題である。この点に関して、2007 年度における貴重な成果は平和・コミュニティ研究叢書第Ⅱ巻、第Ⅲ巻の刊行であった。

第Ⅱ巻、宮島喬・五十嵐暁郎編『平和とコミュニティ—平和研究のフロンティア』は、平和・コミュニティ研究の理論的な枠組みを設定することをめざしている。いずれの論文もコミュニティをキー・コンセプトとすることの重要な背景がグローバル化であることで一致している。その上で、コミュニティが分析、実践にとって重要であることを理論的に解明している。また、ローカル・コミュニティや都市コミュニティの変容に即して論じ、さらにジェンダーや人の移動、多文化共生などの視角から論じている。これらの論文は、平和・コミュニティ研究の基本的な視角を宣言するものであると同時に、今後の研究の基礎となる。また、この巻には平コミのポストクの RA メンバーが優れた論文を執筆しており、共同研究をつうじての大学院教育の成果である。

第Ⅲ巻、佐久間孝正・林倬史・郭洋春編『移動するアジア—経営・開発・文化・ジェンダー』は、本研究の主要な対象地域である東アジアにおけるコミュニティと平和の現状、ダイナミズムを多角的に分析している。すなわち、経済活動におけるトランスナショナル・コミュニティの形成、経済活動と市民連帯、通貨危機、人の移動の現代史と現在の人の移動とホスト社会の現状、都市におけるエスニック・コミュニティ、NGO 活動などが分析されている。「移動するアジア」のタイトルが示すように、現在のアジアのダイナミズムが平和とコミュニティの視角から論じられており、第Ⅱ巻とともに今後の共同研究展開の基礎になるものである。この巻には学外の研究者にも参加してもらい、平和・コミュニティ研究の学会での展開が試みられている。

平コミでは、この 2 巻の刊行に止まらず、これを機に合評会を開催して平和・コミュニティ研究の理解、深化をはかった。各巻 2 回、合計 4 回の合評会には学内外の研究者が集まって活発な議論をたたかわせた。今後もこのような機会を設けて平和・コミュニティ研究の理解と普及に努めたい。

**2. グローバル・ネットワークの形成**

内外の平和研究所・機関との協力のネットワークを形成するために、いくつかの研究活動を行なった。シンポジウム「平和研究と NGO の連携、その可能性」は、平和研究所が平和構築の現場において重要な役割を果たしている NGO とどのようにして連携できるかという共通テーマの下、第 1 部ではアジアにおいて先駆的な平和研究・教育活動を展開しているタイのマヒドン大学大学院人権・社会開発学部のシープラーパー・ペッチャラミーシー講師およびアジアの NGO メンバーを 1 年間招聘して共同研究と大学院教育を行った韓国聖公会大学 NGO 大学院のパク・キョンテ教授にそれぞれ経験とビジョンについて講演していただいた。

ひきつづき、第 2 部では日本の代表的な NGO グループである日本国際ボランティアセンター (JVC 高橋清貴専門調査員)、アムネスティ・インターナショナル日本 (寺中誠事務局長)、ピースボート (吉岡達也共同代表) に加わっていただき、NGO の側からの平和研究所との協力の可能性と問題点をお話いただき、引き続き講演者、平コミメンバーとともに意見交換を行った。

ワークショップ「人の国際移動と人権—EU、アジア、日本」では、フランス、台湾両国から研究者を招き、両国を中心的な事例に人の移動とホスト社会における人権擁護の実態が報告され、討論が行われた。

講演会「平和研究と NGO の連携、その可能性」では、現在世界で最も先駆的な平和研究・教育活動を展開しているバルセロナ自治大学平和研究所で創設以来中心的な役割を果た

### 研究【経過・成果】の概要 つづき

しているマリア・カナダス講師に、同研究所の活動、その理念などについて話していただいた。その先進的な活動は非常に興味深い点を多く含んでいた。

以上のシンポジウム、ワークショップ、講演会は、いずれも平和研究のネットワーク形成の契機になるものとして行われ、今後協定を結び、実際に共同研究を進めて行きたい。これらの平和研究所とはお互いに HP にデータベースを掲載し、平和研究のネットワークを形成し展開していくために利用したい。平コミでは、すでにこの作業を完了した。

平コミのメンバー（五十嵐、郭、林、小川、カプリオ、田島）は 2008 年 3 月 7 日から 11 日に中国の社会科学院日本研究所および南開大学日本研究センターを訪問し、ワークショップを開催した。ここでは、平コミメンバーが各自の研究について報告し、先方にコメントしてもらうことによって、平和・コミュニティ研究の内容と特徴を知ってもらうと同時に、共同研究の可能性を探るという試みがなされた。

いずれの機関においても訪問を好意的積極的に受け止めてもらい、今後の協力、共同研究を積極的に考えることで合意した。また、社会科学院はとくに韓国の研究機関もふくめた日中韓 3 国での共同研究を強く希望した。平コミは、かねてから協力関係にある延世大学国際学部・研究科のメンバーと話し合った結果、2008 年秋に延世大学で開催されるシンポジウムにおいて共同で報告することによって、3 国の共同研究への第一歩とすることをめざすことで合意した。

以上の活動は、いずれも平和研究のアジアを中心としたグローバル・ネットワークの形成に向けての計画行動であり、今後より具体的な成果をあげて行きたい。

### 3. 英文ジャーナル、叢書の刊行

平コミではかねてより、グローバルな活動のために HP の英語版の作成と英文ジャーナルの刊行が望ましいと考えてきた。しかし、そのためにはかなりの費用と時間を必要とすることからウェブサイト・ジャーナルの刊行を検討することを決定した。しかし、2007 年度は HP の英語版作成は進展したが、翻訳のための予算が不足したこともあり、ウェブサイト英文ジャーナルを刊行することはできなかった。

叢書の刊行は前述のように、平和・コミュニティ研究叢書第 II、III 巻を刊行することができた。続いて第 IV 巻を刊行する予定であったが、執筆の遅れなどのために刊行に至っていない。2008 年度中に刊行予定である。また、平コミメンバーのサブグループ化を行ない、各グループがそれぞれ続巻の編集計画を立てることを決定した。また、グローバル・ネットワークによる共同研究においても各サブグループが取組むとともに、その成果を続刊編集にもつなげたいと考えている。

### 4. 平和研究と教育の連携の強化

大学院の「平和・コミュニティ研究科目」の受講生は従来どおりかなりの数に上っており、また研究科横断的な教育の例としての役割も果たしている。2007 年度末、21 世紀社会デザイン研究科でも平和・コミュニティ研究科目を開講し、平コミによる従来の科目と合わせて、さらに充実した科目展開をめざした。しかし、時間不足のために他研究科への説明が十分できなかったために、2007 年度での合同開講は断念し、2008 年度の課題とした。21 世紀社会デザイン研究科においては、2008 年度から平和・コミュニティ研究科目を 10 単位まで修了単位として認めることにした。他の研究科においても 21 世紀社会デザイン研究科提供の平和・コミュニティ研究科目の受講希望は少なくないと思われ、2008 年度には上記の計画を実現したい。

全カリにおいては「立教科目 平和」授業の展開をサポートしているが、その他に 2006 年度から平コミメンバーである五十嵐、佐々木が担当するオンデマンド授業「平和と安全保障」がスタートしている。この授業は早稲田大学との共同授業である。また、2008 年度から郭をはじめ叢書第 III 巻を執筆した平コミメンバーが全カリにおいて、その内容を講義することが決まった。学部のレベルにおいても平和研究教育は充実してきており、大学院と合わせて平和研究教育において立教大学は全国トップレベルにある。

※ この（様式 2）に記入の、経過・成果の公表を見合わせる必要がある場合は、その理由及び差し控え期間等を記入した調書（A 4 縦型横書き 1 枚・自由様式）を添付すること。

**研究発表** (研究によって得られた研究経過・成果を発表した①～④について、該当するものを記入してください。該当するものが多い場合は主要なものを抜粋してください。)

- ①雑誌論文 (著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ)
- ②図書 (著者名、出版社、書名、発行年、総ページ数)
- ③シンポジウム・公開講演会等の開催 (会名、開催日、開催場所)
- ④その他 (学会発表、研究報告書の印刷等)

### 研究書・ジャーナル・ニューズレター

平和・コミュニティ叢書Ⅱ 宮島 喬・五十嵐暁郎編『平和とコミュニティ—平和研究のフロンティア』2007年9月30日、明石書店刊 (宮島、佐々木、小川、五十嵐、松本、佐久間、湯澤が執筆)

平和・コミュニティ叢書Ⅲ 佐久間孝正・林倬史・郭洋春編『移動するアジア—経営・開発・文化・ジェンダー』2007年10月5日、明石書店刊 (林、郭、カプリオ、栗田、佐久間、田中、大橋が執筆)

NEWSLETTER NO.7 2007年10月1日発行、NO.8 2008年3月1日発行

### シンポジウム・講演会

シンポジウム「平和研究とNGOの連携、その可能性」 2007年10月31日 太刀川記念館多目的ホール

講演会 マリア・カナダス (バルセロナ自治大学講師)「ヨーロッパの平和研究・運動」2007年5月20日、28日

### セミナー・ワークショップ

第1回セミナー2007年6月14日 太刀川記念館多目的ホール

「核拡散と日本のプルトニウム利用政策—核の国際管理構想を視野に」

第2回セミナー2008年1月8日 立教大学 池袋キャンパス 5号館第一・二会議室

『住民投票運動とローカルレジーム』をめぐって

第3回セミナー2008年1月10日 太刀川記念館多目的ホール

「市場思想と平和—『経済学の生誕』を振り返る—」

第1・2回連続セミナー2007年12月3日・12月7日

「移動するアジア—経済・開発・文化・ジェンダー」

第3・4回連続セミナー2008年1月11日・1月30日

「平和・コミュニティ—平和研究のフロンティア」

小セミナー2008年2月29日

「外国人労働者受け入れと市民社会—フランスの事例」

「階層化され周辺化された他者—台湾の移住家事労働者」

ワークショップ 2008年3月1日 太刀川記念館多目的ホール

「人の国際移動と人権—EU、アジア、日本」

### フォーラム (若手研究者の研究会)

第1回フォーラム 2007年12月6日 太刀川記念館多目的ホール

「東京のインド人コミュニティの実態と子どもの就学」

第2回フォーラム 2008年1月16日 太刀川記念館多目的ホール

「生成するコミュニティ—タイ北部山地民社会におけるコミュニティ・ベース・ツーリズム」

第3回フォーラム 2008年3月11日 太刀川記念館多目的ホール

「インドネシアにおける日本人団体の歴史」